

安全データシート

作成日：2019 年 05 月 27 日

改訂日：2024 年 05 月 22 日

1. 製品及び会社情報

製品名：速乾洗浄剤ハード 会社名：株式会社 モトヤ 住所：大阪市中央区北区紅梅町 2-8

担当：営業本部特販課 電話番号：06-6358-9131（緊急連絡先） FAX 番号：06-6358-9130

用途及び使用の制限：印刷インキ用洗浄剤

2. 危険有害性の要約 GHS 分類 物理化学的危険性 引火性液体：区分 2

健康有害性 急性毒性（吸入蒸気）：区分 4 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性：区分 1

生殖毒性：区分 2 特定標的臓器（単回ばく露）：区分 3 特定標的臓器（反復ばく露）：区分 2

誤えん有害性：区分 1

環境有害性水生環境有害性 短期（急性）：区分 1 水生環境有害性 長期（慢性）：区分 1

* 上記で記載がない危険有害性項目は「区分に該当なし」または「分類できない」

GHS ラベル要素 絵表示：



注意喚起語：危険

危険有害性情報：引火性の高い液体及び蒸気 吸入すると有害 重篤な眼の損傷

生殖能力または胎児への悪影響のおそれの疑い

呼吸器への刺激のおそれまたは眠気またはめまいのおそれ

長期にわたるまたは反復ばく露による臓器の障害のおそれ

飲み込んで気道に進入すると生命に危険のおそれ

水生生物に非常に強い毒性 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策 容器を密閉しておく。 熱・火花・高温物体のような着火源から遠ざける。

保護手袋・保護眼鏡・保護マスクを着用すること。 取扱後は手をよく洗う。

ミスト・蒸気を吸入しない。 環境への放出を避ける。

応急措置

眼に入った場合は直ちに多量の水で 15 分以上洗い、眼科の手当てを受ける。

飲み込んだ場合は水でよく口の中を洗浄し直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合は直ちに汚染された衣服や靴等を脱がせ、付着部を石鹼水で

洗浄し多量の水で洗い流す。もし皮膚に炎症を生じた場合は医師の手当てを受ける。

保管

直射日光を避け、換気の良い場所で、施錠をして保管する。

廃棄

内容物や容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託。

3. 組成及び成分情報 単一製品・混合物の区分：混合物

化学名	含有量（％）	化学式	CAS No
メチルシクロヘキサン*	40～60	C ₇ H ₁₄	108-87-2
エステル系溶剤	20～40	-	-
ノルマルプロピルアルコール*	20～40	C ₃ H ₈ O	71-23-8

*労働安全衛生法：表示・通知対象物質 毒劇物法の該当：非該当

4. 応急措置

吸入した場合：大量に吸入したら直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。

体を毛布等で覆い保温して安静に務め、速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合：直ちに水・温水等で洗い流した後、石鹼でよく洗い落とす。

もし皮膚に炎症を生じた場合は医師の手当てを受ける。

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で 15 分以上洗眼し眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：水で口内を洗浄。

可能であれば喉に指を差し込んで吐き出させ直ちに医師の手当てを受ける。

応急措置をする者の保護：救済者は保護具を着用。

5. 火災時の措置

消火剤：泡、粉末、炭酸ガス

使ってはならない消火剤：棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

特定の消火方法：火元への燃焼源を断ち消火剤を用いて風上より消火。

移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。周囲の設備等には散水し冷却。

消火を行う者の保護：消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：作業には、必ず適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用。

必要に応じた換気を確保。

環境に対する注意事項：漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

除去方法：少量の場合はウエス等で拭き取り、密閉できる空容器に回収。

多量の場合は盛土等で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理。

二次災害の防止策：付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に消火剤を準備。

床を濡れた状態で放置すると滑りやすく、スリップ事故の原因となるため注意。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策：取扱い場所の近くに、洗顔及び身体洗浄のための設備を設置。

注意事項：火気注意 安全取扱い注意事項：作業場の換気を十分に行う。

保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。

保管 適切な保管条件：屋内の通気のよい場所で容器を密閉し保管し、火気熱源から遠ざける。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：屋内作業所で使用の場合は発生源の密閉化又は全体換気装置を設置する。

管理濃度：設定されていない 許容濃度：400ppm（メチルシクロヘキサン）：日本産業衛生学会（2005 年度版）
ACGIH TLV-TWA（2009）：100ppm（ノルマルプロピルアルコール）

呼吸器用の保護具：必要により有機溶剤用防毒マスク等を使用。

手の保護具：ゴム手袋等耐油性の保護手袋を着用。

眼の保護具：ゴーグル型、全面型等の保護眼鏡を着用。

皮膚及び身体の保護具：帯電防止性能を有する長袖保護衣及び安全靴を着用。

9. 物理的及び化学的性質 物理的状態 形状：液体 色：無色透明 臭い：わずかに固有の臭い

pH：データなし 物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲 沸点、初溜点：101℃

分解温度：データなし 引火点：データなし（計算値約 5.9℃） 発火点：データなし

蒸気圧：データなし 比重：0.85 溶解性：水、油に一部溶解

10. 安定性及び反応性

安定性：通常の保管取扱い条件では安定。 反応性：データなし 混触危険物質：強酸化剤

危険有害な分解性生物：データなし

11. 有害情報：メチルシクロヘキサンの情報（参考）

急性毒性（吸入蒸気）：マウスの吸入試験（2 時間）：7500～10000ppm で横臥（反射消失）を示し、10000～12500ppm では致死性である（ACGIH（7th, 2001）、PATTY（6th, 2012）、産衛学会許容濃度の提案理由書（1986））より区分 4

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性：本物質のウサギを用いた眼刺激性試験（OECD TG405 相当）において、適用 1 及び 24 時間後に結膜発赤がみられたが、48 時間後には回復した（SIAP(2014)）、REACH 登録情報（Access on October 2019）より区分 2B

特定標的臓器毒性（単回暴露）：(1)ヒトでは本物質の吸入ばく露により、立ちくらみ、眠気、鼻と喉の刺激を生じるとの報告がある。また本物質蒸気は短時間の中枢神経系抑制を惹起するとの報告がある（PATTY(6th, 2012)）

(2)ラット及びマウスの 1 時間単回吸入ばく露試験において、26.3mg/L で活動性亢進、協調運動性失調、衰弱がみられたが、死亡例はなかった（SIAP(2014)）ことから区分 3（麻酔作用、気道刺激性）

特定標的臓器毒性（反復暴露）：(1)ラットを用いた強制経口投与による 28 日間反復投与毒性試験において、300mg/kg/day 以上の雄腎臓の硝子滴（回復性あり）、1000mg/kg/day の雌雄で肝臓重量増加、肝細胞肥大、雌で腎臓の硝子滴（回復性なし）等がみられた（SIAP(2014)）、NITE 安全性試験結果（Access on September 2019）

(2)ラットを用いた強制経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験（OECD TG 422）におい

て、250mg/kg/day 以上の雄で腎尿細管上皮の硝子滴（免疫染色の結果から $\alpha 2u$ グロブリン蓄積によるものでない）、1000mg/kg/day の雌雄で ALT 増加、総コレステロール増加、肝臓重量増加、腎臓重量増加等がみられた（(SIAP(2014))、厚労省既存化学物質毒性データベース（Access on September 2019）より区分 2（腎臓）とした。誤えん有害性：炭化水素であって、かつ動粘性率が 20℃で約 0.95mm²/s であり 40℃での動粘性率は 20.5mm²/s 以下であると考えられることから区分 1 とした。

有害情報：ノルマルプロピルアルコールの情報（参考）

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：ウサギの眼に適用した試験において重度の結膜炎、虹彩炎、角膜混濁および潰瘍形成が認められた（ACGIH(2004)、PATTY(5th 2001)）との報告より区分 1

生殖毒性：ラットを用い、雄は 6 週間吸入ばく露後に非ばく露の雌と交配、雌は妊娠 1 日目～9 日目に吸入ばく露を行った試験において、母動物の体重増加抑制や摂取量の減少など一般毒性の発現用量で、雄の生殖能低下（ACGIH(2007)、PATTY(5th 2001)）が報告されている事から区分 2

特定標的臓器毒性（単回曝露）：マウスで吸入ばく露により深い麻酔を起こしたとの報告

（EHC102(1990)）、PATTY(5th 2001)があり、ウサギで経口投与による麻酔作用 ED50 値は 1440mg/kg bw との記載もある。またヒトにおける刺激性（目および鼻）を示す閾値は 4000～16000ppm とされている事より区分 3

主たる有害性情報

化学名	メチルシクロヘキサン	ノルマルプロピルアルコール
急性毒性（吸入蒸気）	区分 4	分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激	区分 2B	区分 1
生殖毒性	分類できない	区分 2
特定標的臓器・全身毒性（単回曝露）	区分 3	区分 3
特定標的臓器・全身毒性（反復曝露）	区分 2	区分外
誤えん有害性	区分 1	分類できない

12. 環境影響情報：メチルシクロヘキサンの情報

水生環境有害性 短期（急性）：甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EC50=0.33mg/L（環境省生態影響試験、2006）であることから、区分 1

水生環境有害性 長期（慢性）：慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく（難分解性、BOD による分解度：0%（既存点検、1986））、藻類（セレナストラム）の 72 時間 NOEC(r)=0.067mg/L（環境省生態影響試験、2006）であることから、区分 1 となる。慢性毒性データが得られてない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく（難分解性、BOD による分解度：0%（既存点検、1986））、甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EC50=0.33mg/L（環境省生態影響試験、2006）であることから、区分 1 となる。以上の結果から、区分 1

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法及び関係法規・法令を遵守して、適正に処理する。 汚染容器・包装：同上

14. 輸送上の注意

特定の安全対策及び条件：輸送前に容器に破損、腐食、漏れ等のないことを確認する。転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

15. 適用法令

消防法：危険物 第4類第1石油類（非水溶性液体） 化管法（PRTR法）：非該当

労働安全衛生法 特定化学物質障害予防規則：非該当

有機溶剤中毒予防規則：非該当

表示・通知対象物質：No. 494 1,1,1-トリクロロエタン/No. 576 1,1,1-トリクロロエタン

毒物及び劇物取締法：非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律：特別管理産業廃棄物（廃油）

16. その他情報 参考資料 IARC 45（1989） HSDB（2005） Patty（4th, 1994）（5th, 2001）

ACGIH（7th, 2001, 2004, 2007） RTECS（2002） HSFS（2002） SITTIG（4th, 2002）

EHC 102（1990） IUCLID（2000） ICSC(J)（1997） AQUIRE（2003）

既存化学物質安全性データ 産衛学会勧告（1993） 安全データシートの作成資料 JIS Z 7253：2012
製品安全データシート作成指針（日本化学工業会）

独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS分類結果データベース 消防法関係法令集

社団法人 大阪市防火管理協会 JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法（日本規格協会）

JIS Z 7253：2019 GHSに基づく危険有害性情報の伝達方法（日本規格協会）

★この「安全データシート（SDS）」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。

本製品を取り扱う場合はこの記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した適切な処置を講じて下さい。本データシートは、安全や品質の保証書ではありません。

★この「安全データシート（SDS）」は JIS Z 7252 / 7253：2019 に基づいて作成したものです。